

郵便局と見守り協定を締結

市は、市内27郵便局と地域見守り活動に関する協定を11月20日に締結しました。郵便局員が配達業務中などに、郵便物や新聞が郵便受けに入ったままになっているなどの異変に気付いたときは、速やかに市へ連絡し、市は早期に安否を確認します。

締結式では、天満市長と郵便局を代表して三原郵便局局长の本松英治さんが締結書に署名しました。天満市長は「安心して暮らせる社会づくりの一助になることと期待しています」とあいさつ。本松局長は「地域に密着した郵便局として見守り活動に協力していきます」と話しました。



▲協定締結後握手をする本松三原郵便局長と天満市長

単身世帯や高齢者のみの世帯が増加する中、見守り活動を充実させていきます。

☎高齢者福祉課

☎0848・67・6055

公安委員会指定1周年三原自動車学校で式典

県公安委員会指定の三原自動車学校で先月12日、指定1周年記念式典が行われ、天満市長をはじめ、関係者約50人が出席しました。

式では同校代表の坪内孝道さんが「地域社会に貢献できる自動車学校をめざしていきます」とあいさつ。市長が「市としても支援していきたい」と述べました。

平成19年4月以降、市内には自動車学校がない不慣れた状況が続きましたが、平成24年7月に小泉町に同校が開校、平成25年12月に県公安委員会の指定を受け、実技試験も免除となっています。総敷地面積は、約2万平方メートル、コース敷地面積は約1万1000平方メートル。開校後約1400人が高齢者講習を受講し、指定を受けてからの1年間で約170人が卒業しました。市内に再び設置された自動車学校をぜひ活用してください。



▲真新しいコースが広がる三原自動車学校

☎政策企画課

☎0848・67・6009

新たな救助工作車を配備

先月12日、市消防署本署に新たに配備した救助工作車の就役式を行いました。

救助工作車は、事故や災害などの救助現場に出動する消防救助車両の一つ。国道2号や山陽自動車道などの交通量の多い幹線道路が通る市では、交通事故現場への出動が大半を占め、車に閉じ込められた人を救助する場面などで活躍しています。昨年度は年間80回程度の出動がありました。

救助1号車と命名された新しい救助

工作車は、無線で遠隔操作できるクレーンとウインチを装備。操作する救助隊員は、現場を確認しながら、崖下に転落した人を吊り上げて助けたり、事故で動かなくなった車両を移動させたりすることができます。

また、バッテリーで動作するジャッキや切断機など最新の資器材を搭載し、より迅速に救助活動が行えます。車両の更新は23年ぶりで、約1億1400万円で購入しました。

市消防では新車両の導入とともに、隊員の救助技術向上にも努め、一人でも多くの命を救えるよう備えています。



▶クレーンやウインチなど、最新装備を備えた救助1号車

☎消防本部警防課

☎0848・64・5924